

- 1 別離とは血の無き痛み冬の蝶――
- 2 初雪ややがて銀沙漠の十勝（とかち）――
- 3 沢庵や我が血の母系疼きをる――
- 4 詐欺師にも家に子のゐる蜜柑山――
- 5 寒玉子崩るささやかなる不幸――
- 6 鮭下ろす不貞断罪するごとく――
- 7 荒ぶるを生業とせむ冬將軍――
- 8 極上の大寒氷点下三十度――
- 9 ラグビーや縦横無尽なる外語――
- 10 銀狐駆く古き名前の古き森――
- 11 柏手の数ほど爆ぜる淑気かな――
- 12 節分や独身寮の静かなる――
- 13 立春の陽のくびすぢを愛撫せむ――
- 14 曇色の指輪はづす日あげは蝶――
- 15 灰皿に積む待春の暇かな――
- 16 春愁や鍋の煮干しの目が曇る――
- 17 春うらら猫のいびきの求心力――
- 18 鳥の巢やしづかに山は孕みをる――
- 19 君といふ人体模型夏隣――
- 20 憲法記念日何撃つ指鉄砲――
- 21 酢の物を一斉迂回こどもの日――
- 22 寸胴鍋（ずんどう）に五月病ごと煮えてをる――
- 23 子らはみな無慈悲の巨人蟻を踏む――
- 24 青鷺の鳴けばジュラ紀の夜に戻る――
- 25 リラ冷えや夜着の喘鳴して哀し――

- 26 〔をんなまつ踵磨きて梅雨に入る〕
- 27 〔夏料理箸の不作法は不美人〕
- 28 〔かつを食ふ目には前世の海の青〕
- 29 〔だんだんと脳(なづき)ふやける油照〕
- 30 〔やはらかき二十歳の翅よ晩夏光〕
- 31 〔ゆく夏の最後尾にて人を恋ふ〕
- 32 〔遠花火愛の蒸発して永し〕
- 33 〔虫鳴くや街灯ことごとく孤独〕
- 34 〔枝豆や銅鍋(あかなべ)ぐつと滾りをる〕
- 35 〔父の忌の煙草の匂ふ牽牛花〕
- 36 〔立秋の風と走らむ花電車〕
- 37 〔幾千のテールランプの盆に入る〕
- 38 〔間引菜のかがやきを食む朝餉かな〕
- 39 〔流星や我もいつかは古代人〕
- 40 〔急須より今日の始まる白露かな〕
- 41 〔高速バス蒼き更待月を追ふ〕
- 42 〔新米や裸婦像よりむしろがねに〕
- 43 〔みどり児の新しき靴秋の葬〕
- 44 〔初雪や神の骨より白きもの〕
- 45 〔寒濤や親なき子らの後退る〕
- 46 〔闇は黙死者にやさしき六花かな〕
- 47 〔乳房売るをんなの目にも寒の星〕
- 48 〔生きものの息なし生きてゆく雪野〕
- 49 〔冬の日の大鍋ずつととろ火なる〕
- 50 〔凍空や輓馬たてがみ振り上げて〕

- 51 老猫や次の初雪までの日々――
- 52 独り居の夫婦茶碗の底冷えす――
- 53 不細工も愛されやすき寒苺――
- 54 出汁一滴血の一滴とする真鱈――
- 55 葱切つて切つて髪まで葱の香（かざ）――
- 56 寒北斗不惑の道の座標とす――
- 57 冬の靄無職の顎の固き髭――
- 58 年の夜や眠ることすら惜しき黙――
- 59 焚初や米粒ひとつづつ息吹――
- 60 病む胸に限りあるだけ満つ淑気――
- 61 初茜街は静かに宿酔す――
- 62 雪解川太く正しき尿（ばり）の音――
- 63 残雪の黒きを雪の骸とす――
- 64 鋭角に突き抜けてくる二月かな――
- 65 外つ国に座して青ぬた遠かりき――
- 66 無頼派の指にも指輪蚯蚓鳴く――
- 67 知恵の輪をほどけば薄し風の春――
- 68 春星に背中さすられてる喪服――
- 69 古傷の淡きひとすぢ花前線――
- 70 割箸の数だけありし花見かな――
- 71 五月雨やストレスに利子付いてをる――
- 72 地球といふ小瓶に満ちる夏の景――
- 73 リラ冷えや親になれないまま枯るる――
- 74 老猫の眠りしひげも海霧まみれ――
- 75 はつなつや少年羽化の低き声――

- 76 夏来たる厨は揺るぎなき炎(ほむら)――
- 77 夏の夜の震源テナーサクソフォン――
- 78 万緑や海竜いまだ眠りをる――
- 79 粘性の夏が喉(のみど)に絡みをる――
- 80 終の日や空は未完といふ白夜――
- 81 手花火を持たす子もなく家もなく――
- 82 隣人の性根のごとき胡瓜折る――
- 83 星涼しゆの字のまろきけぶりだし――
- 84 もう誰もいらぬと裸足より自由――
- 85 人ひとり灰になる朝日輪草――
- 86 きのみより別の乳房と寝る葉月――
- 87 爽涼はポケットの穴先んずる――
- 88 梨剥きて病室に満つ生気かな――
- 89 遠花火影を半分づつ重ね――
- 90 飴玉を噛めば秋星滅ぶ音――
- 91 路線バス残暑ばかりを吐きだせり――
- 92 体温の高きをんなと夜半の秋――
- 93 秋冷や今朝も竈の火は烈し――
- 94 旅鞆皆それぞれの高き天――
- 95 神居らぬ休耕田や赤とんぼ――
- 96 はららごや腹の芯まで潮の渦――
- 97 甘藷炊く未だ父性のなき不惑――
- 98 太腕や箱いつぱいの秋刀魚買ふ――
- 99 竜骨の軋むこの国颯風来――
- 100 猫の尾の影伸び切つて秋とんぼ――